

平成25年度第2回

かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000 標本 ◆標本抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成25年11月1日(金)～11月22日(金) ◆有効回収数 1,422 標本 ◆有効回収率 47.4%
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 1 定住状況について 2 生活環境の評価について 3 関心ごとと行動範囲について 4 市政に対する評価と要望について 5 市職員に対する市民意識について 	<ul style="list-style-type: none"> 6 区役所サービスについて 7 町内会・自治会活動の活性化について 8 市民の防災意識について 9 住宅用火災警報器の設置および維持管理について

※ 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	605	42.5
2 女性	794	55.8
(無回答)	23	1.6
合計	1,422	100.0

2 居住区別

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	204	14.3
2 幸区	162	11.4
3 中原区	242	17.0
4 高津区	200	14.1
5 宮前区	212	14.9
6 多摩区	201	14.1
7 麻生区	180	12.7
(無回答)	21	1.5
合計	1,422	100.0

3 性/年代別

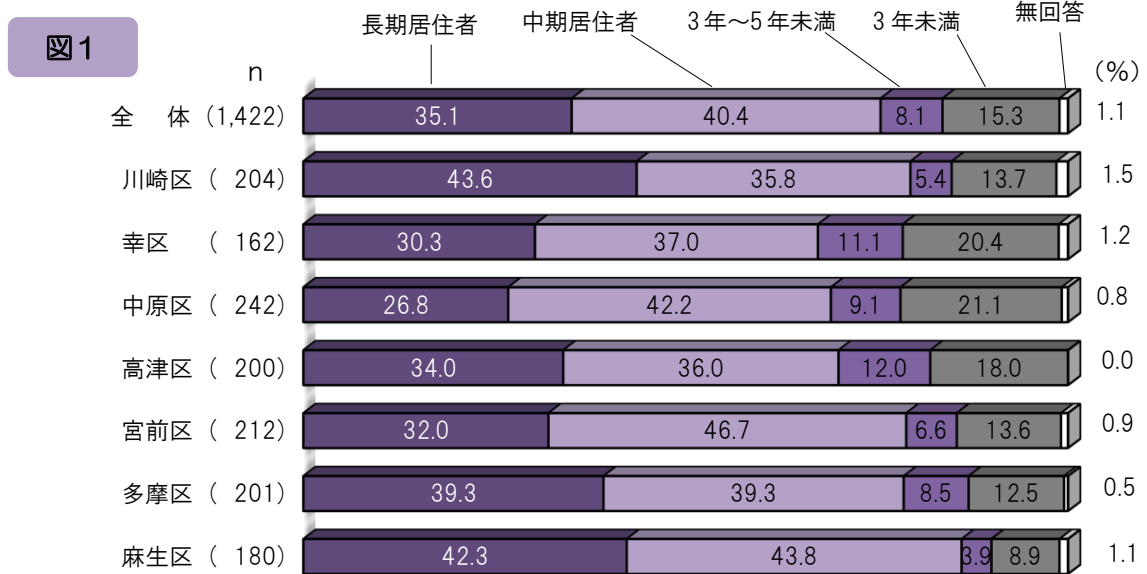
	全体		男性		女性		無回答	
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)
1 20歳代	135	9.5	46	7.6	88	11.1	1	4.3
2 30歳代	272	19.1	107	17.7	165	20.8	0	0
3 40歳代	308	21.7	133	22.0	173	21.8	2	8.7
4 50歳代	224	15.8	100	16.5	124	15.6	0	0
5 60歳代	279	19.6	129	21.3	149	18.8	1	4.3
6 70歳以上	183	12.9	87	14.4	95	12.0	1	4.3
(無回答)	21	1.5	3	0.5	-	-	18	78.3
合計	1,422	100.0	605	100.0	794	100.0	23	100.0

1 定住状況について

1 居住年数

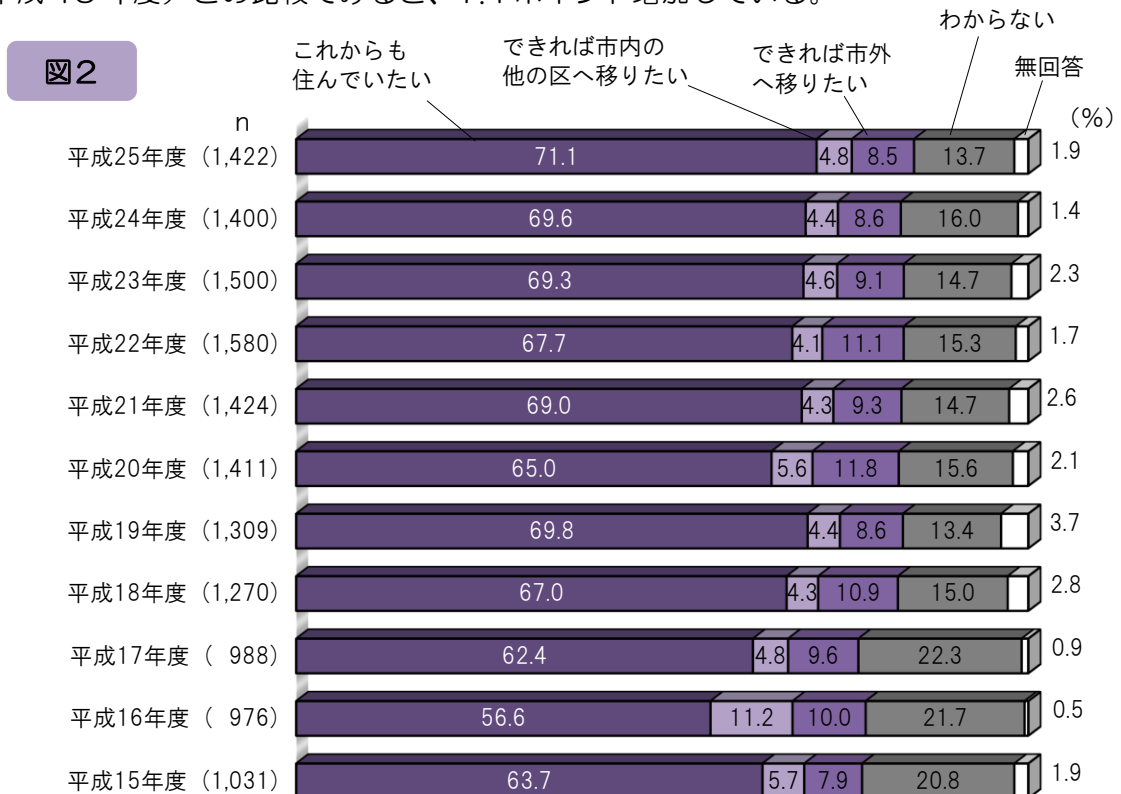
居住年数を聞いた。居住区別で見ると、＜長期居住者※¹＞は、川崎区（43.6%）と麻生区（42.3%）が4割を超えて高い。＜中期居住者※²＞は、宮前区（46.7%）、麻生区（43.8%）、中原区（42.2%）で4割を超える。一方、「3年未満」は、中原区（21.1%）で最も高くなっている。

※1 長期居住者：居住年数が20年以上 ※2 中期居住者：居住年数が5年以上～20年未満



2 定住意向

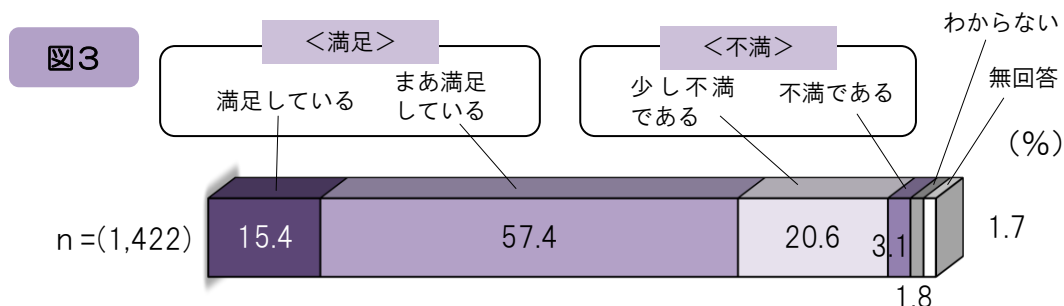
定住意向を聞いた。「これからも住んでいたい」（71.1%）は約7割となっており、10年前（平成15年度）との比較で見ると、7.4ポイント増加している。



2 生活環境の評価について

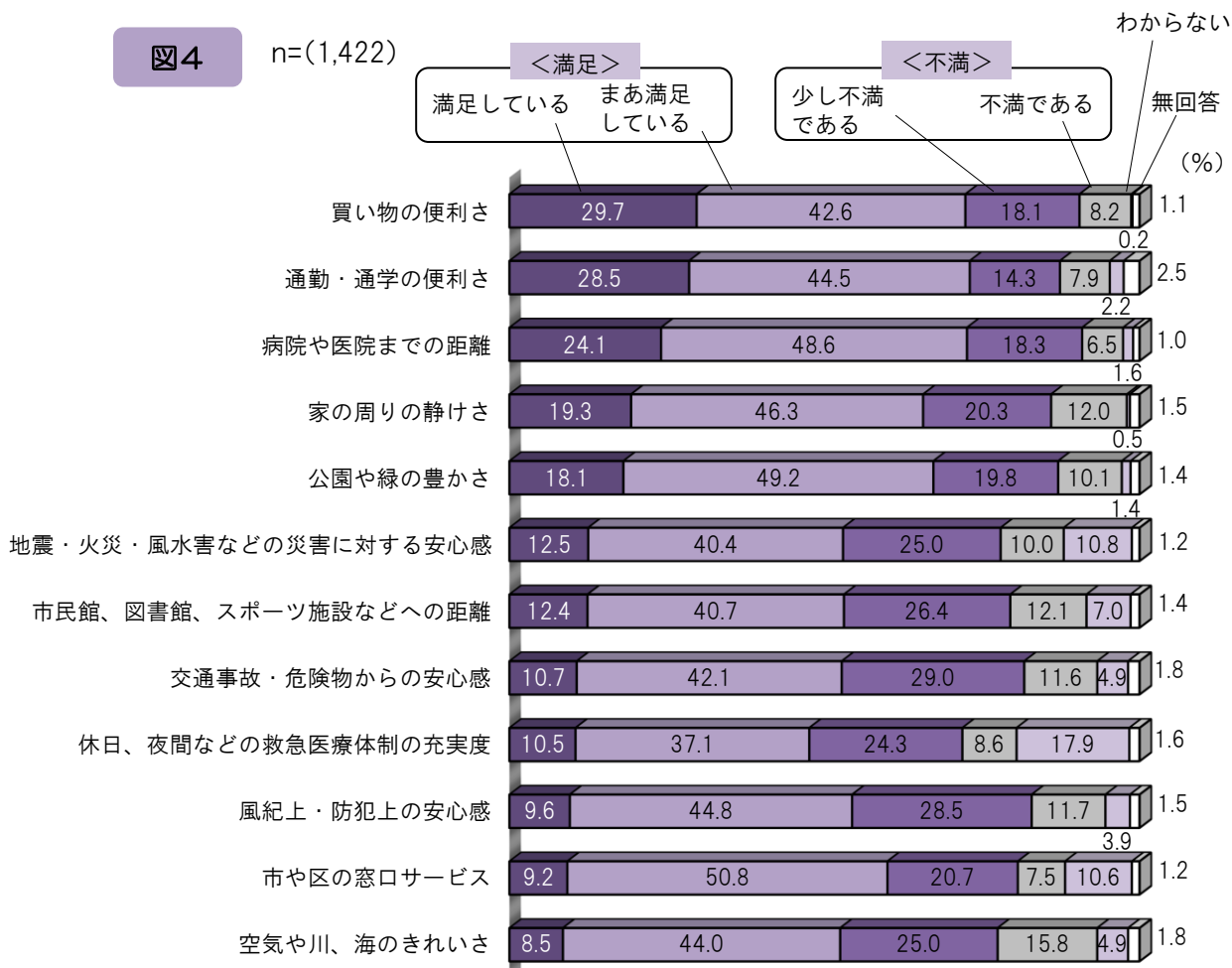
1 総合的な生活環境の満足度

生活環境の評価について、総合的な満足度を聞いた。「満足している」(15.4%)と「まあ満足している」(57.4%)を合わせた<満足>(72.8%)は7割を超えている。一方、「少し不満である」(20.6%)と「不満である」(3.1%)を合わせた<不満>(23.7%)は約2割となっている。



2 生活環境の満足度

生活環境の評価について、各項目の満足度を聞いた。「満足している」と「まあ満足している」を合わせた<満足>は、「買い物の便利さ」(72.3%)、「通勤・通学の便利さ」(73.0%)、「病院や医院までの距離」(72.7%)が7割を超えている。



3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

関心を持っていることを聞いた。「健康」(67.2%)が6割後半で最も高くなっている。次いで、「老後の生活」(52.4%)、「家族」(46.2%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(41.8%)、「趣味・娯楽」(40.3%)という順になっている。

過去5年の推移をみても、上位3項目は「健康」「老後の生活」「家族」で変動がない。

図5 (複数回答) n=(1,422)

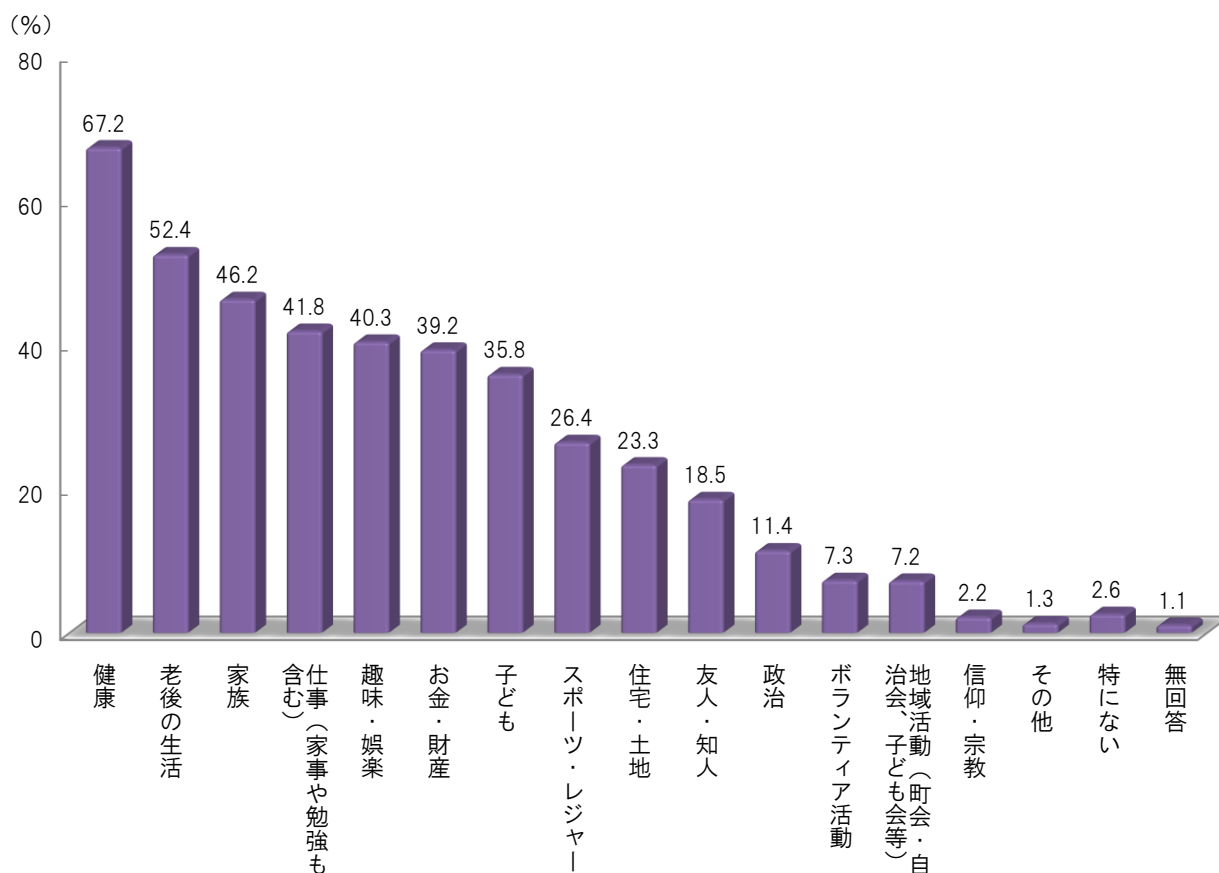


表1 過去5年経年比較(上位6項目)

(%)

順位 年度	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成20年度	健康 68.7	老後の生活 53.2	家族 46.7	お金・財産 41.2	仕事(家事や勉強も含む) 40.3	趣味・娯楽 40.2
平成21年度	健康 70.8	老後の生活 51.6	家族 49.7	仕事(家事や勉強も含む) 43.7	趣味・娯楽 41.4	お金・財産 41.2
平成22年度	健康 66.8	老後の生活 49.5	家族 48.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.6	お金・財産 41.6	趣味・娯楽 39.7
平成23年度	健康 71.5	老後の生活 53.4	家族 47.9	仕事(家事や勉強も含む) 41.5	お金・財産 40.3	趣味・娯楽 39.1
平成24年度	健康 66.5	老後の生活 52.6	家族 48.4	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	お金・財産 41.4	趣味・娯楽 41.1
平成25年度	健康 67.2	老後の生活 52.4	家族 46.2	仕事(家事や勉強も含む) 41.8	趣味・娯楽 40.3	お金・財産 39.2

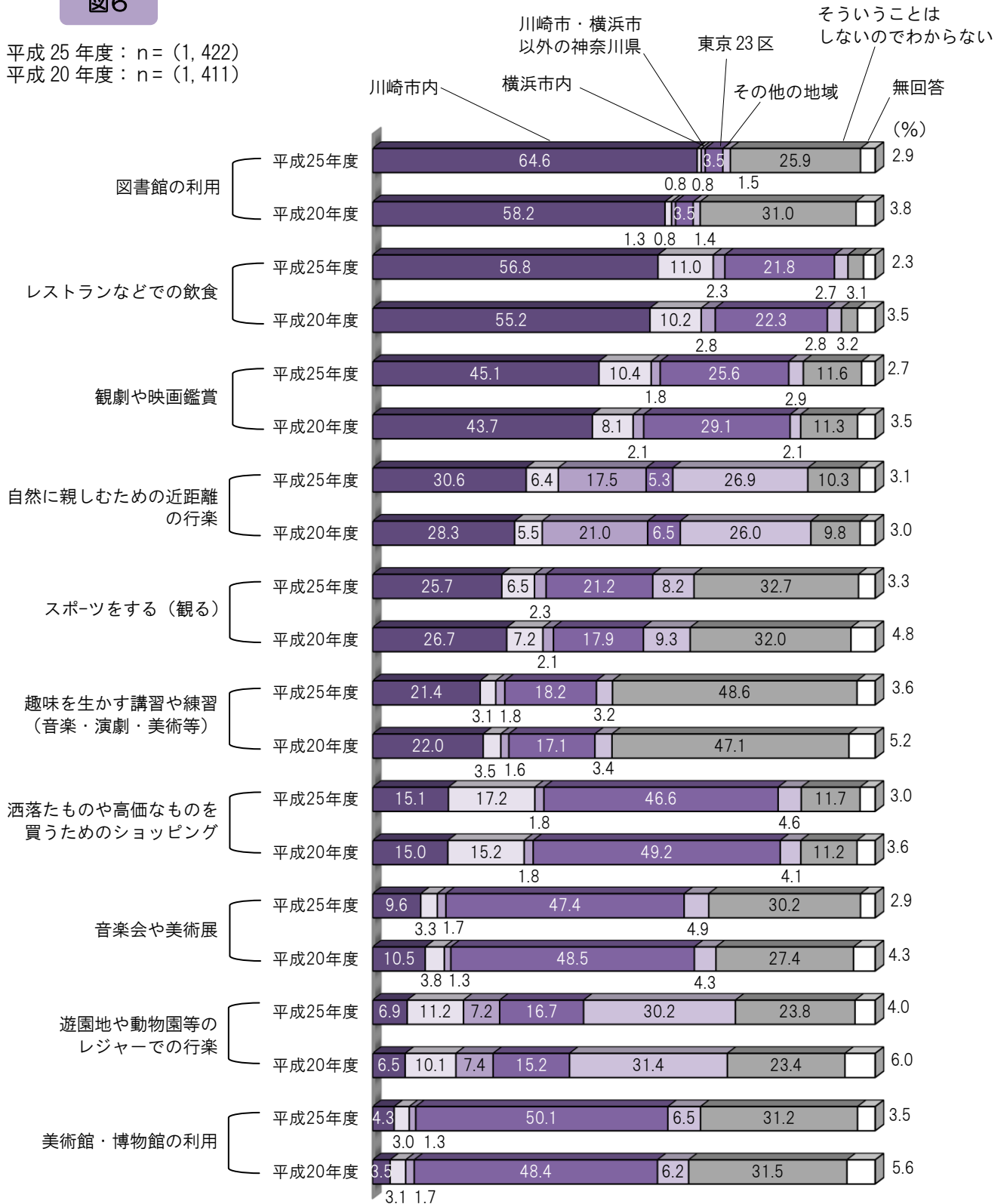
2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

行楽や文化施設の利用、ショッピングの場所などを聞いた。『川崎市内』の利用率が高い項目は、「図書館の利用」(64.6%)、「レストランなどでの飲食」(56.8%)、「観劇や映画鑑賞」(45.1%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(30.6%)となっている。

5年前(平成20年度)と比較してみると、『川崎市内』の利用率が最も上がったものは、「図書館の利用」で6.4ポイント増加した。

図6

平成25年度：n=(1,422)
平成20年度：n=(1,411)



4 市政に対する評価と要望について

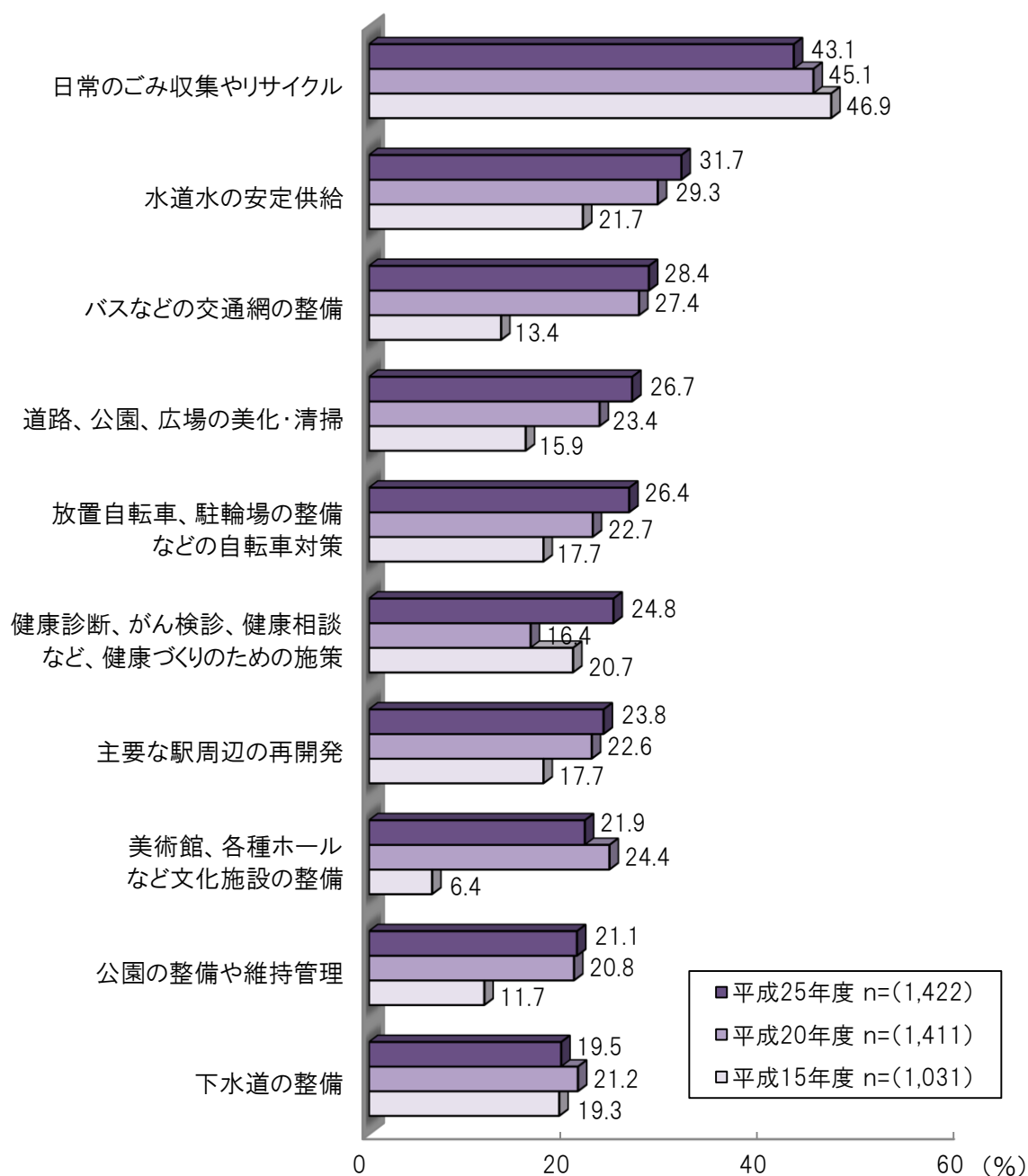
1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

市政の仕事でよくやっていると思うことを聞いた。「日常のごみ収集やリサイクル」(43.1%)が4割を超えて最も高く、次いで、「水道水の安定供給」(31.7%)、「バスなどの交通網の整備」(28.4%)となっている。

5年前(平成20年度)との比較でみると、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」は2.5ポイント減少しているものの、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は8.4ポイント増加するなど、全体的に増加傾向にある。

また、10年前(平成15年度)との比較でみると、「日常のごみ収集やリサイクル」の3.8ポイント減少以外、全て増加している。

図7 (複数回答、上位10項目、平成25年度・平成20年度・平成15年度との比較)



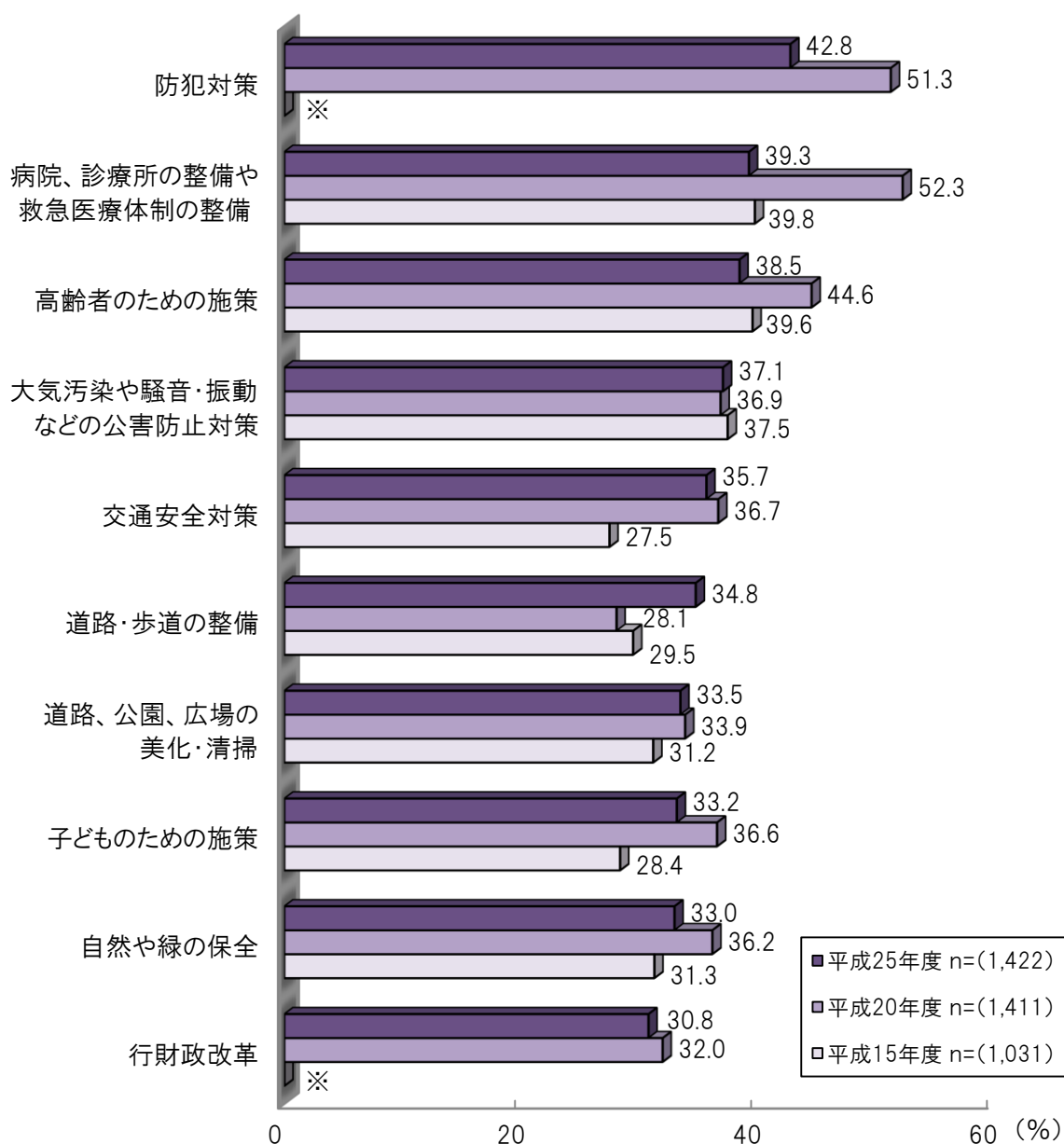
2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことを聞いた。「防犯対策」(42.8%)が4割を超えて最も高く、次いで、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(39.3%)、「高齢者のための施策」(38.5%)の順であった。

5年前(平成20年度)との比較でみると、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は13ポイント、「防犯対策」では8.5ポイント減少し、「道路・歩道の整備」は6.7ポイント増加している。

また、10年前(平成15年度)との比較でみると、「交通安全対策」で8.2ポイント増加している。

図8 (複数回答、上位10項目、平成25年度・平成20年度・平成15年度との比較)



※平成15年度調査では、「防犯対策」「行財政改革」という選択肢はなかった。

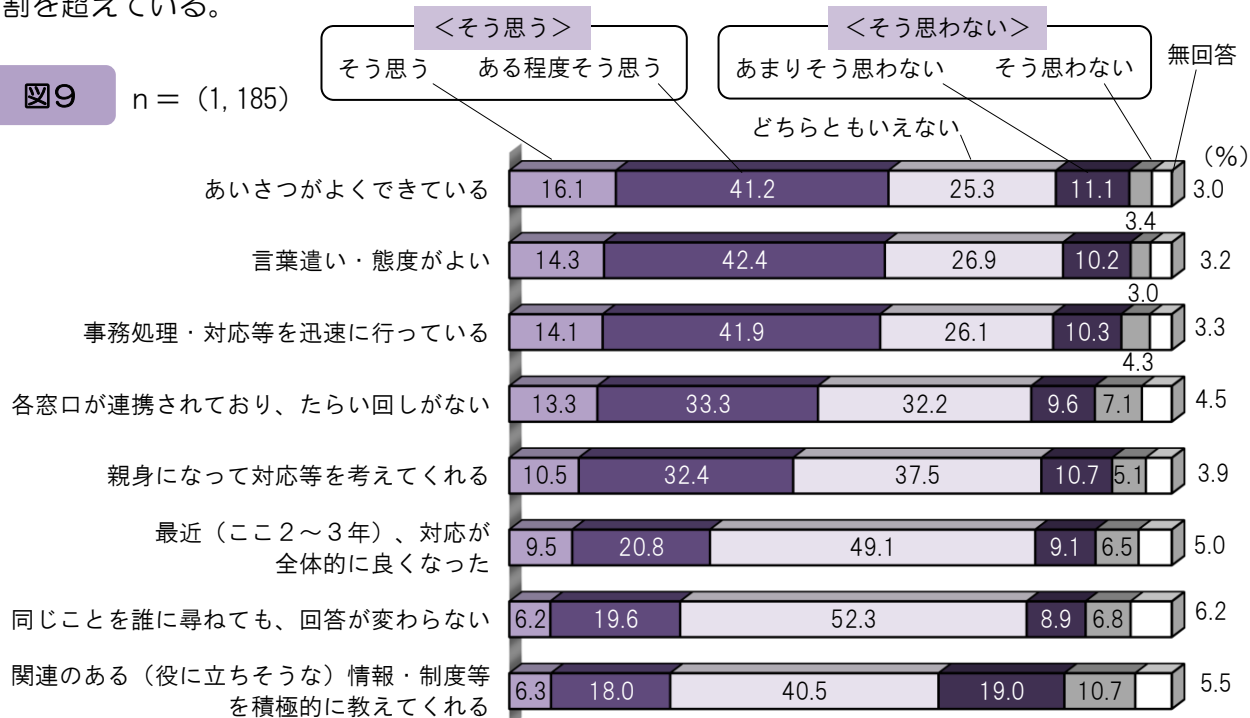
5 市職員に対する市民意識について

1 市職員による市民対応

市職員による市民対応等について、どのように感じているかを聞いた。「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた<そう思う>は、「あいさつがよくできている」(57.3%)、「言葉遣い・態度がよい」(56.7%)、「事務処理・対応等を迅速に行っている」(56.0%)で5割を超えている。

図9

n = (1, 185)

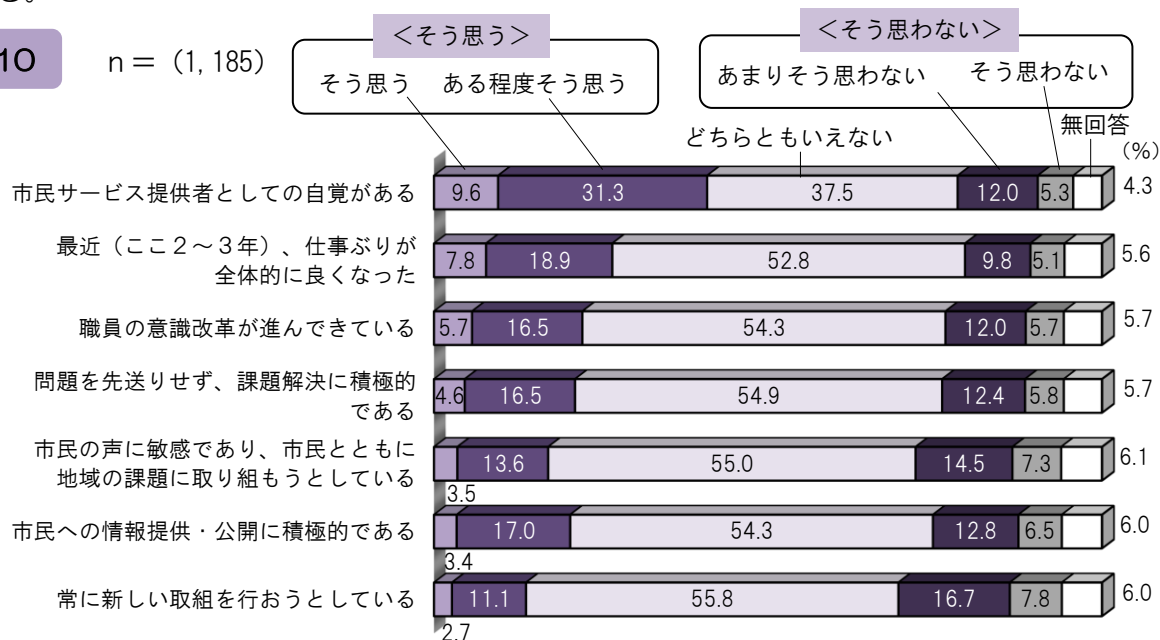


2 市職員の仕事ぶり

市職員の仕事ぶりについて、どのような印象を持っているかを聞いた。「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた<そう思う>は、「市民サービス提供者としての自覚がある」(40.9%)が4割となっている。「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた<そう思わない>は、「常に新しい取組を行おうとしている」(24.5%)で2割半ばとなっている。

図10

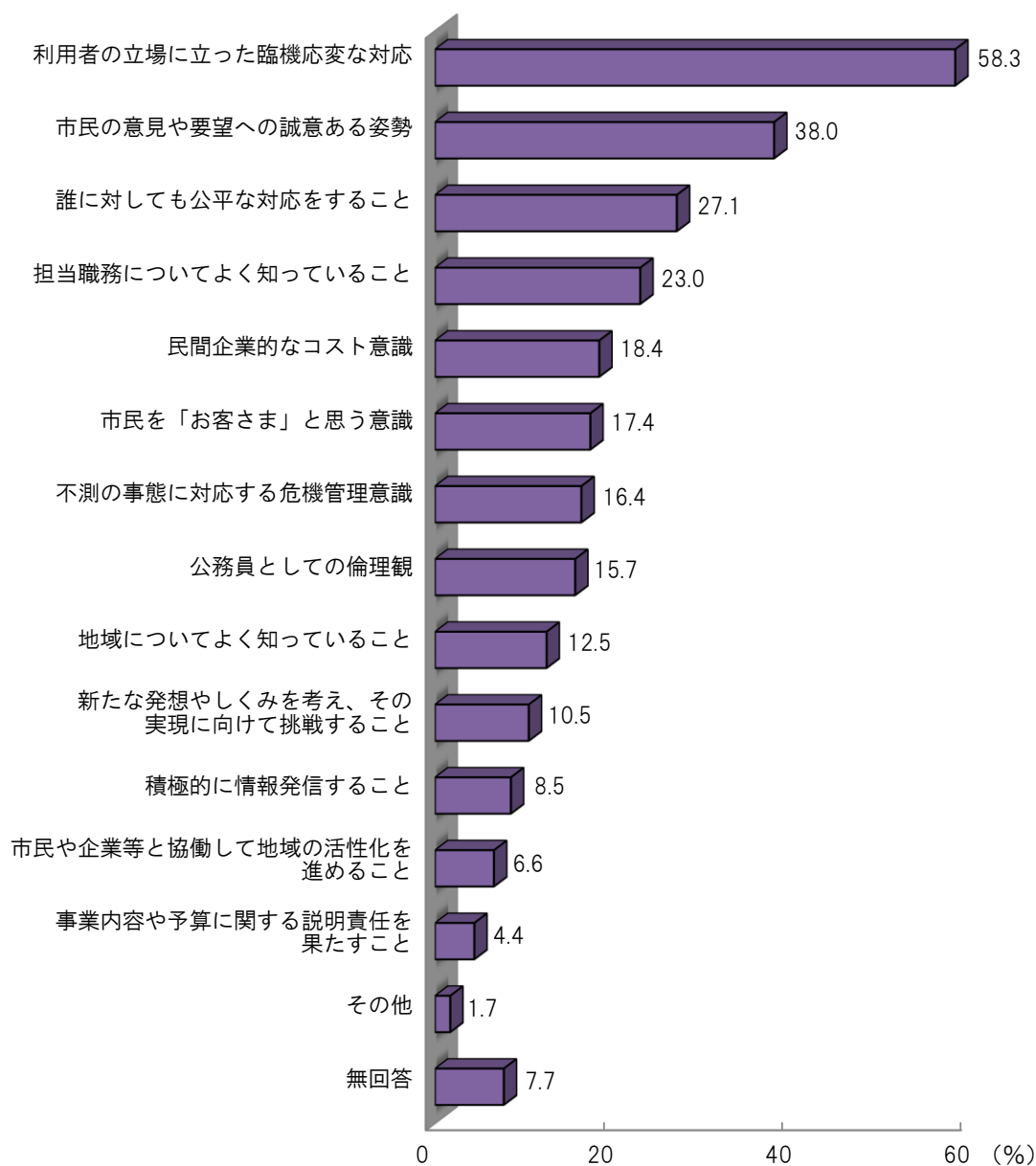
n = (1, 185)



3 市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの

市職員に求めるものとして、特に重要であると思うものを聞いた。「利用者の立場に立った臨機応変な対応」(58.3%)が5割後半と最も高くなっている。次いで、「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」(38.0%)、「誰に対しても公平な対応をすること」(27.1%)、「担当職務についてよく知っていること」(23.0%)と続いている。

図 11 (複数回答) n = (1, 422)

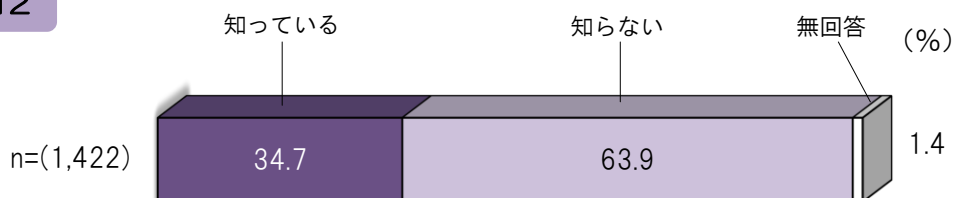


6 区役所サービスについて

1 第2・第4土曜日の窓口開設の認知度

区役所における第2・第4土曜日の窓口開設を知っているかを聞いた。「知っている」(34.7%)は3割半ばとなっており、「知らない」(63.9%)は6割を超えている。

図12

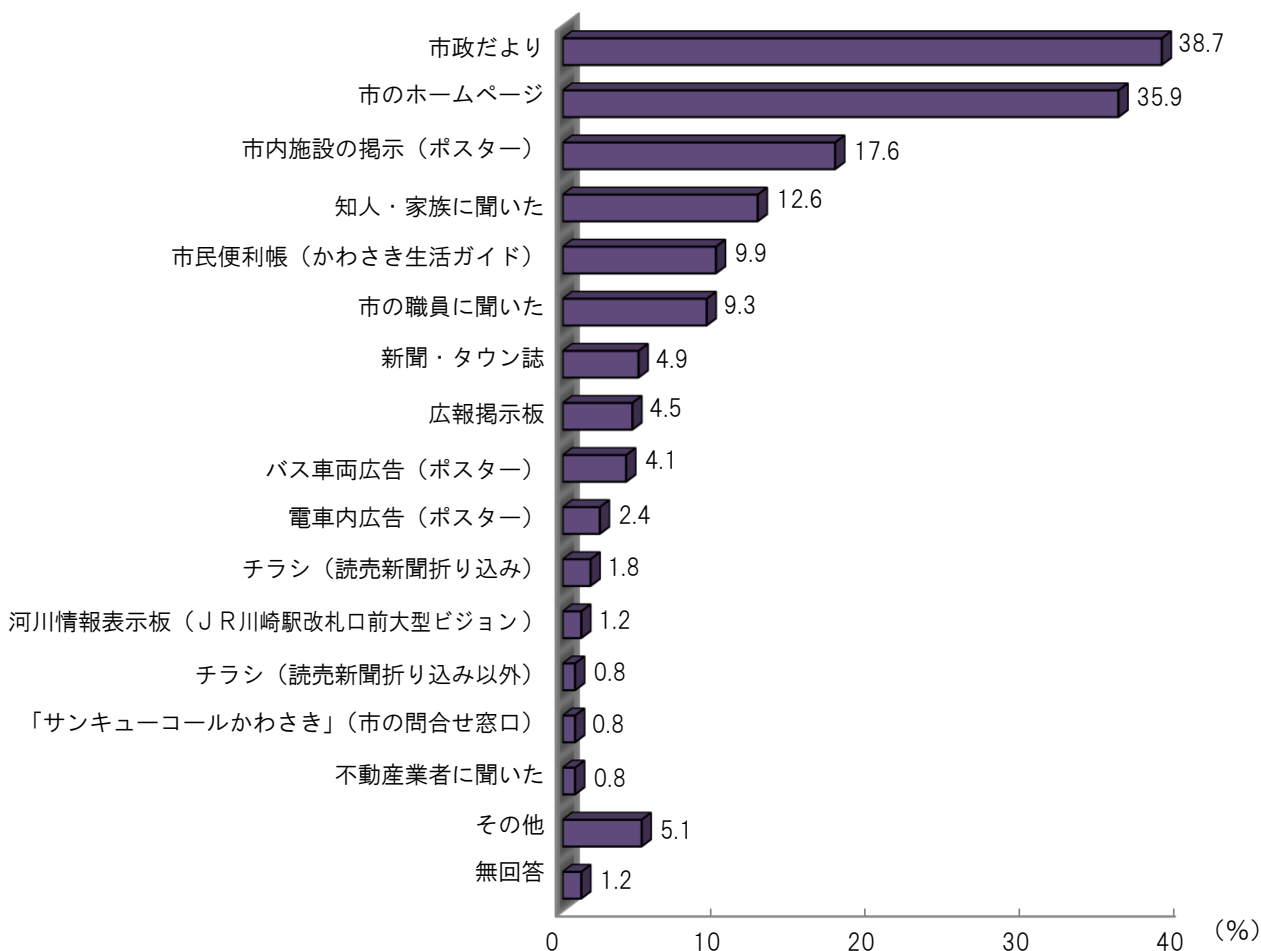


2 第2・第4土曜日の窓口開設を知ったきっかけ

第2・第4土曜日の窓口開設を「知っている」と回答した人に、知ったきっかけを聞いた。「市政だより」(38.7%)、「市のホームページ」(35.9%)が特に高く、次いで、「市内施設の掲示(ポスター)」(17.6%)、「知人・家族に聞いた」(12.6%)の順になっている。

図13

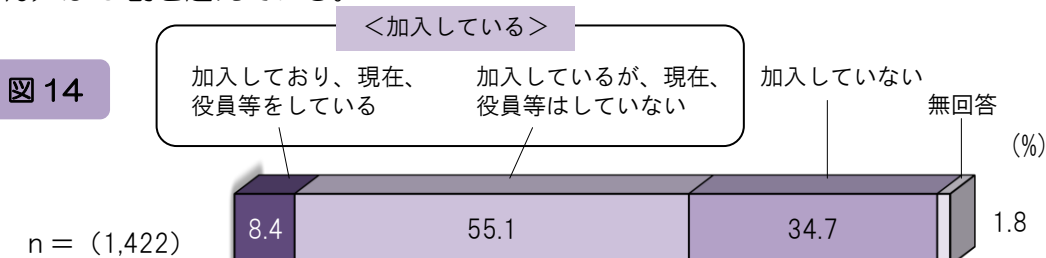
(複数回答) n=(493) ※総数 1,422 のうち「知っている」と回答した人数



7 町内会・自治会活動の活性化について

1 町内会・自治会との関わり

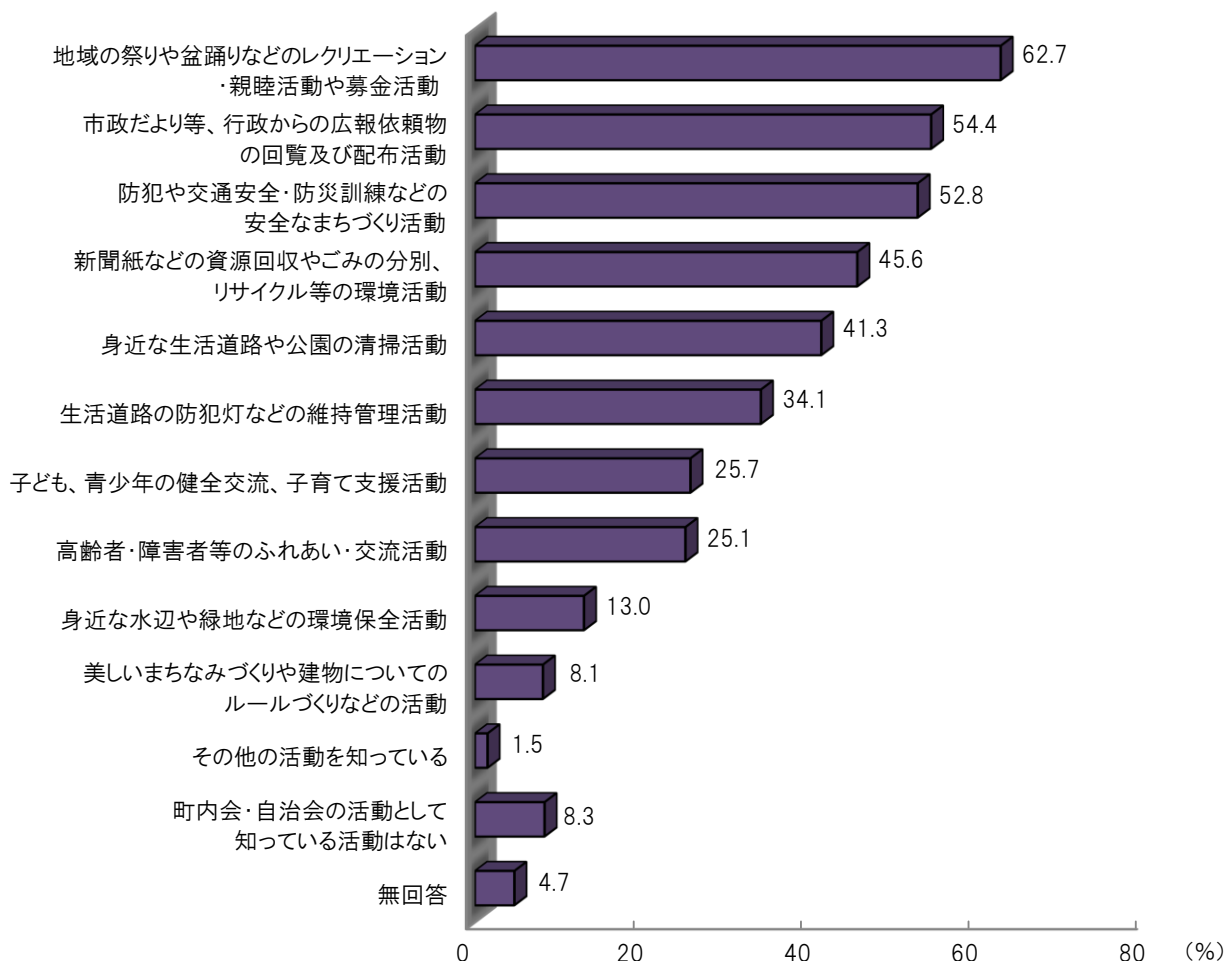
町内会・自治会との関わりを聞いた。「加入しており、現在、役員等をしている」(8.4%)と「加入しているが、現在、役員等はしていない」(55.1%)を合わせたく加入している>(63.5%)は6割を超えている。



2 町内会・自治会活動の認知度

町内会・自治会が実施している活動で知っているものを聞いた。「地域の祭りや盆踊りなどのレクリエーション・親睦活動や募金活動」(62.7%)が6割を超えて最も高い。次いで、「市政だより等、行政からの広報依頼物の回覧及び配布活動」(54.4%)、「防犯や交通安全・防災訓練などの安全なまちづくり活動」(52.8%)の順となっている。

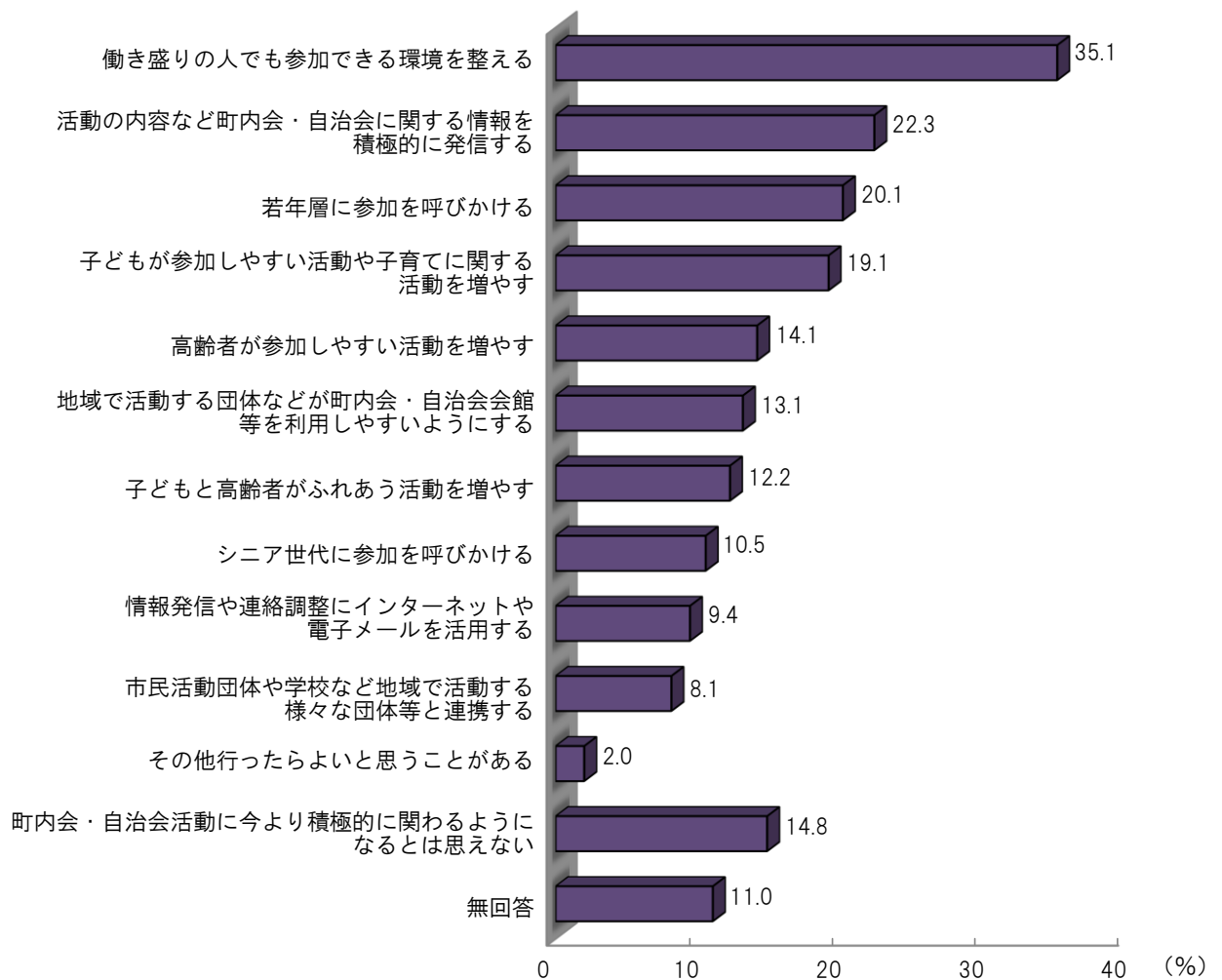
図 15 (複数回答) n=(1,422)



3 町内会・自治会活動に期待すること

町内会・自治会がどのようなことを行おうと、今より積極的に活動に関わるようになると思うか聞いた。「働き盛りの人でも参加できる環境を整える」(35.1%)が3割半ばで最も高くなっている。次いで、「活動の内容など町内会・自治会に関する情報を積極的に発信する」(22.3%)、「若年層に参加を呼びかける」(20.1%)の順になっている。一方、「町内会・自治会活動に今より積極的に関わるようになるとは思えない」(14.8%)が1割半ばであった。

図 16 (複数回答) n=(1,422)

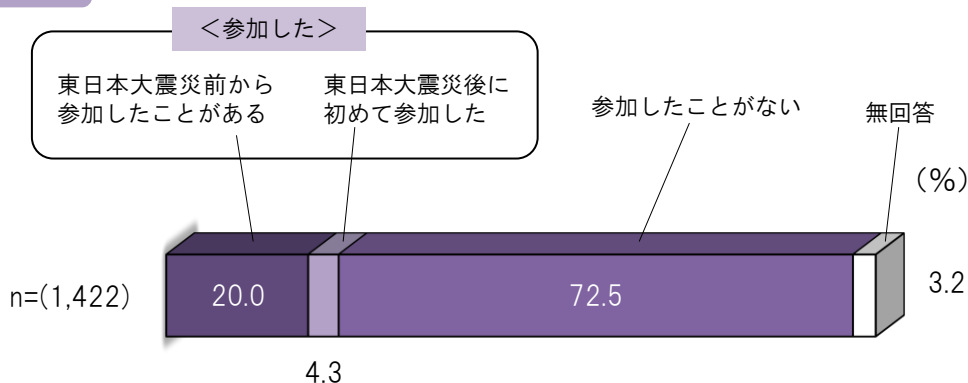


8 市民の防災意識について

1 防災訓練への参加

川崎市などで主催する「防災訓練」に参加したことがあるか聞いた。「東日本大震災前から参加したことがある」（20.0%）と「東日本大震災後に初めて参加した」（4.3%）を合わせた＜参加した＞（24.3%）は2割半ばであった。一方、「参加したことがない」（72.5%）は約7割となっている。

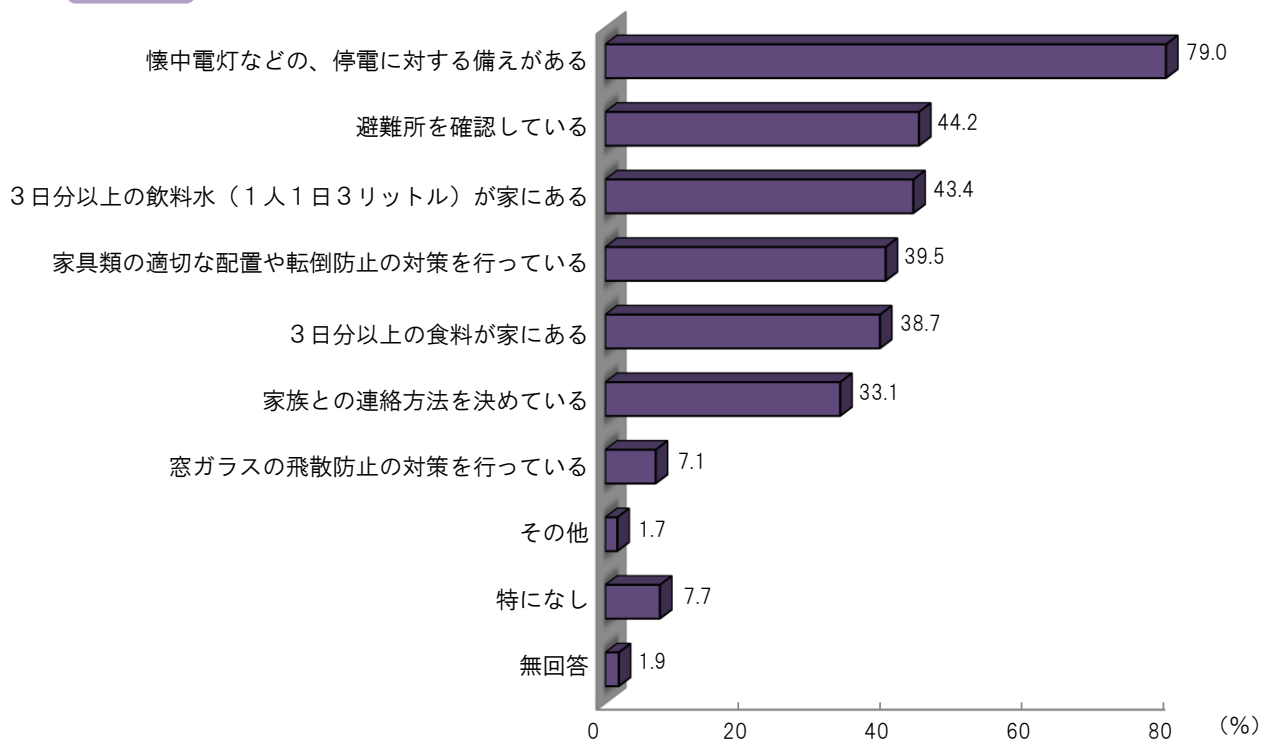
図 17



2 防災に関する家庭内での取組

防災に関する家庭内での取組などを聞いた。「懐中電灯などの、停電に対する備えがある」（79.0%）が8割弱と最も高く、次いで、「避難所を確認している」（44.2%）、「3日分以上の飲料水（1人1日3リットル）が家にある」（43.4%）の順であった。

図 18 （複数回答） n=(1,422)

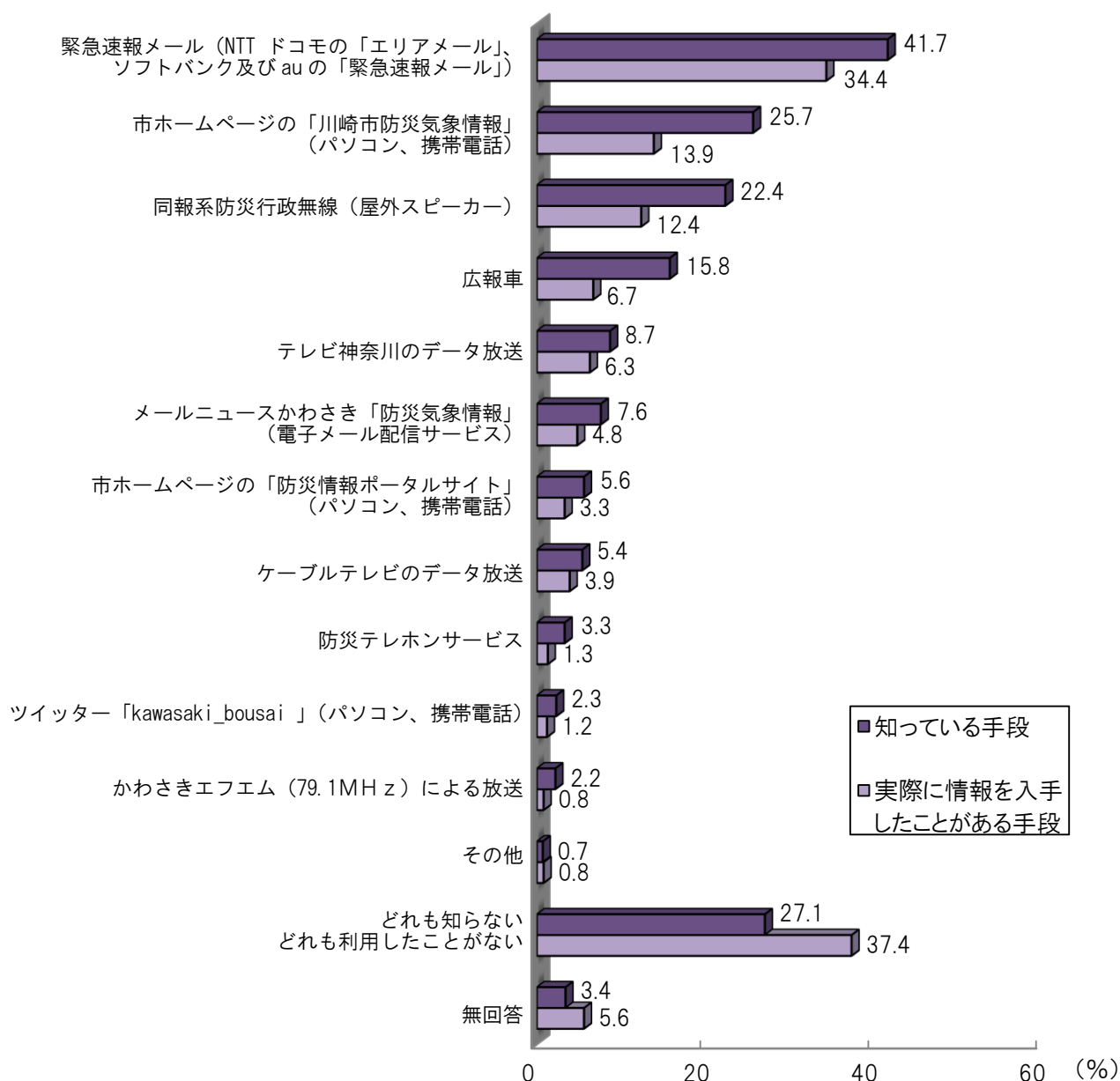


3 災害に関する情報の入手手段

川崎市からの災害に関する情報の入手手段について聞いた。知っている手段は、「緊急速報メール（NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及び au の「緊急速報メール」）」（41.7%）が約 4 割と最も高い。次いで、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」（パソコン、携帯電話）」（25.7%）、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」（22.4%）の順となっている。一方、「どれも知らない」（27.1%）が 2 割台であった。

実際に情報を入手したことがある手段は、「緊急速報メール（NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及び au の「緊急速報メール」）」（34.4%）、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」（パソコン、携帯電話）」（13.9%）、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」（12.4%）の順となっている。

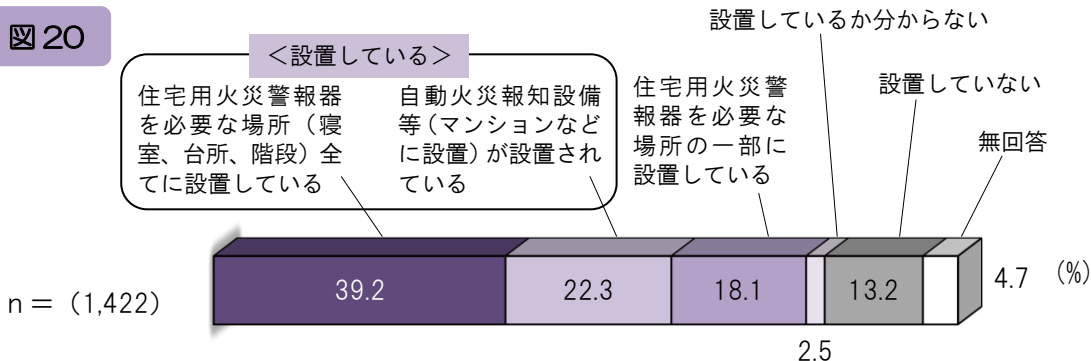
図19 (複数回答) n=(1,422)



9 住宅用火災警報器の設置および維持管理について

1 住宅用火災警報器の設置状況

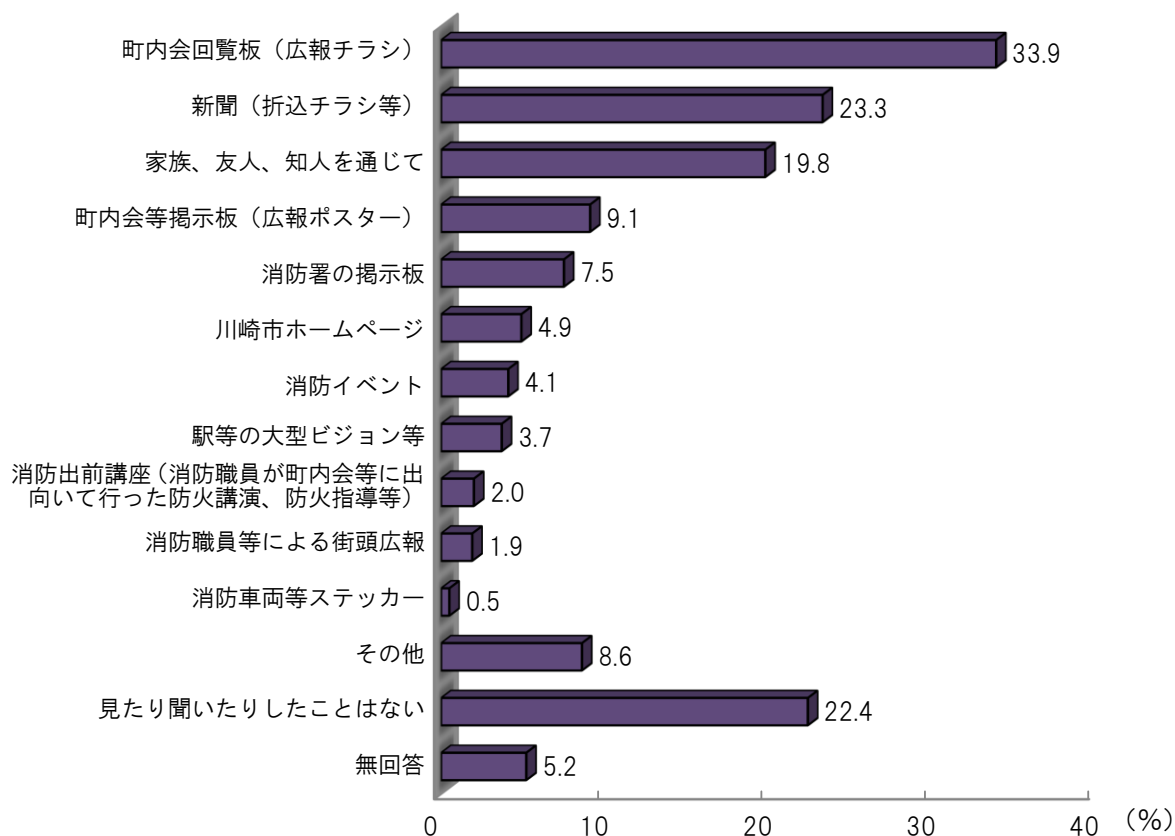
住宅用火災警報器を設置しているか聞いた。「住宅用火災警報器を必要な場所（寝室、台所、階段）全てに設置している」（39.2%）と「自動火災報知設備等（マンションなどに設置）が設置されている」（22.3%）を合わせた<設置している>（61.5%）が約 6 割と高い。次いで、「住宅用火災警報器を必要な場所の一部に設置している」（18.1%）の順であった。



2 住宅用火災警報器の広報活動の認知状況

住宅用火災警報器の広報活動で知っているものを聞いた。「町内会回覧板（広報チラシ）」（33.9%）が 3 割を超えて最も高く、次いで、「新聞（折込チラシ等）」（23.3%）であった。

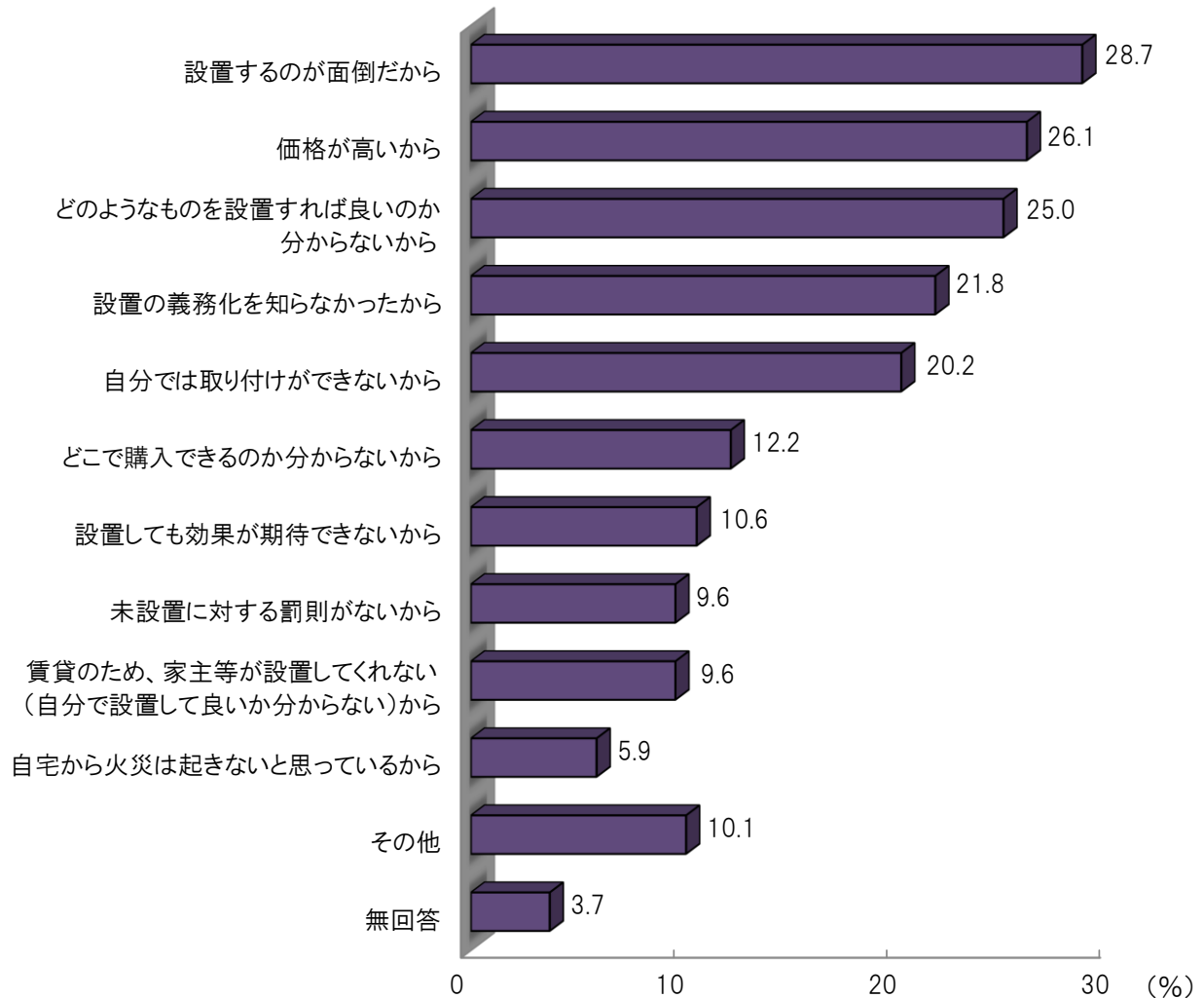
図 21 （複数回答） n=(1,422)



3 住宅用火災警報器を設置していない理由

住宅用火災警報器を設置していない理由を聞いた。「設置するのが面倒だから」(28.7%)、「価格が高いから」(26.1%)、「どのようなものを設置すれば良いのか分からないから」(25.0%)の順となっている。一方、「設置の義務化を知らなかったから」(21.8%)が約2割であった。

図22 (複数回答) n=(188)



平成25年度第2回かわさき市民アンケート概要版
平成26年2月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2291 (直通)
FAX 044-200-3919